

<週報No. 2,900> 3,011 回例会

2019年10月25日(金)

■会長／玉本 広人 ■幹事／山田 文雄

◆司会＝八幡一成SAA

◆ゲストビジター＝本日はいらっしゃいません。

◆出席報告

本日	66.67%	16名欠席
前回訂正	81.25%	9名欠席

◆ラッキーナンバー＝No.34 加藤明博君

◆ニコニコボックス＝●玉本広人君、山田文雄君＝本日はロータリー情報委員会担当です。三井委員長よろしくお祈りします。●山本實君＝皆様台風19号台風被害は無事でしたでしょうか。●宮坂康弘君＝台風19号による災害で被害にあわれた方にお見舞い申し上げます。27日は諏訪湖マラソン大会です。にぎやかになることを祈ります。●小平直史君、河田康幸君＝諏訪圏工業メッセのご開催おめでとうございます。日曜日の諏訪湖マラソンのご盛況をお祈り致します。●古屋了君＝連続欠席失礼いたしました。●菊池俊樹君＝久しぶりの参加ですが宜しくお願い致します。●河西正一君、伊藤武利君＝結婚記念日のお花ありがとうございます。●加藤明博君＝ラッキーNoにあたって。

◆会長告知・玉本広人会長＝訃報のお知らせですが、諏訪湖 RC 幹事の宮坂陽子さまが先日お亡くなりになりました。息子さんはローターアクトメンバーですので、皆様もご支援できることがあればよろしくお祈りしたいと思います。

さて、心配された台風19号は各地で猛威を振るい、県内では千曲川が暴れ、堤防決壊や溢水で家が流されたり床上浸水など大きな被害がありました。災害にあわれた皆さんにお見舞いを申し上げ一日も早い復旧に協力をしていきたいと思ひます。

一方諏訪地方では、避難指示が出されましたが幸いなことに大きな被害はありませんでした。ただ道路や線路などの交通網はマヒし陸の孤島という新聞見出しも出る状況となり、徐々に回復しているとはいえ、観光や物流への影響は大きく消費増税の影響もあり、今後が心配されます。何とか明るい方向へ向かってほしいものです。さて、先日20日(日)に、友好クラブであります瀬戸

RCの創立60周年記念式典があり5名で参加してまいりました。瀬戸 RC60年の地域に密着した様々な奉仕の足跡は素晴らしいものでありました。当時瀬戸の会員でありました宝泉寺の江川辰三様にご縁をいただき友好を結んで32年となりますので瀬戸諏訪両クラブの互いの歴史の半分以上の間友好を紡いできたこととなります。大変な歓待を受けまして、今後ともますます友好を深めていきたいと思いますとお約束させていただきました。北川副会長の年度が御柱となり瀬戸の会長予定者と北川副会長が固い握手をなされてました。先の話ではありますが瀬戸の皆さんをご歓迎いただきたくよろしくお祈りいたします。

また記念講演会では、松本 RC の会員で東京大学名誉教授・スズキメソード会長の早野龍吾氏より「AI時代に生きる子供たち」と題してお話を聞かせていただきました。

「AIvs.教科書が読めない子供たち」という本を引用しながら、これからの子供たちの伸ばすべき能力について語られました。この本私も読んだのですが、非常にショッキングでした。例えば「次の文を読みなさい。『幕府は1639年ポルトガル人を追放し、大名には沿岸の警備を命じた。』この文と次の文は同じか?『1639年ポルトガル人は追放され、幕府は大名から沿岸の警備を命じられた』答えは違うですが、中学生の正解率は57%。えっ!これがわからないのと思ひますけど、かなり危機的状況といえます。

ではどうするのか。数がわかる、字が書けるなど、IQなどで測れる力を「認知的能力」、IQなどで測れない内面の力を「非認知的能力」と呼びます。非認知的能力とは、やる気、忍耐力、協調性などで、幼少期に非認知的な能力を身につけておくことが、大人になってからの幸せや経済的な安定につながるということです。そして幼児期以降でも楽器は、非認知的能力を育てるとのことです。さすがスズキメソードの会長さん、宣伝ではありませんが宣伝ですとおっしゃってました。祝宴の席で名刺交換をさせていただいた時に伺ってみました。「私でも今から間に合いますでしょうか?」「もちろんです!」とお答えいただきました。早速押入れにしまいっぱなしだったギターのメンテナンスを始めることにします。

◆幹事報告・山田文雄幹事＝①宮坂陽子幹事のお葬式に諏訪 RC 会員一同として弔電を打ってありますのでご承知おきください。②20日の瀬戸クラブ創立60周年には会長・幹事、太田さん、小口ガバナー補佐、北川副会長

の5名で参加致しました。友好クラブであります諏訪クラブを格別に丁重に迎えて頂いた事を報告します。③27日(日)地区大会の参加者は20名です。バスに乗車される方は乗り遅れないようにお願いします。バス時刻は柿木観光を午前7時発、布半7時10分発です。尚、バス乗車関係は小口副幹事が担当します

④役員及び理事指名委員会が29日(火)18:00布半にて行われます。該当者は出席をお願いします。⑤図書贈呈式が30日(水)14:30集合諏訪中にて行われます。大勢の方のご参加をお願いします。⑥来週11月1日(金)の例会はロータリー財団委員会担当のクラブフォーラムとなります。竹上委員長宜しくをお願いします。

◆**委員会報告・北川一彦君**＝10月4日例会、チャイルドライン諏訪事務局長宮澤節子様卓話について補足します。「秘密は守る、名まえも言わなくていい、なんでも話していい、途中で切ってもいい」の子どもとの4つの約束のもとで運営していますが、養成講座を年に一回開催したり、子ども達にカードを配るにはお金が必要です。県の補助金が年々減少していることから、是非、賛助会員になっていただきたい。ご協力よろしくをお願いします。

◆**クラブフォーラムロータリー情報委員会卓話・三井章義委員長**＝ロータリー情報委員会の任務は、全会員に対してロータリーについて、あらゆる知識と理解を広げるよう、適切なロータリーの考え方を伝えることにあります。次に、新会員がロータリーを正しく理解し、ロータリー会員の特権と責務を理解することに対し、強かに援助しなければならないことになっております。更にロータリーの誕生から現在までの広範囲にわたり、クラブ会員に対し常にロータリー情報を伝達せよとなっています。加えて、1996年6月のRI理事会決定で、情報委員会は会員が入会してから1年間新会員のオリエンテーションを監督することになりました。とにかく大変難しい委員会であり、責任の重い委員会であります。

今日は約20分の時間で、ロータリーの原点であるロータリー誕生のお話をさせていただきます。

まず、ロータリーの誕生については「ロータリーの友」に毎号判り易い説明が掲載されていますが、詳しく解説しますと、1905年に青年弁護士ポール・ハリスが三人の友人と共にアメリカシカゴ市にロータリークラブを作りました。その目的や考え方がどうであったかを知ることは、現在のロータリーを理解し、進むべ



き道を考える上で重要なことであると思います。それを知る近道はポール・ハリス自身の言葉を知ることです。幸いポール・ハリスには多くの著書があります。また数々の演説の言葉が残されています。その中で「ロータリーへの道」という著書の中で、ポール・ハリス自身が考え方を述べているので、いくつかご紹介していきたいと思います。

三人の友達の一人は、ハリスが最も親しくしていた石炭商のシルベスター・シールで初代会長に推され、以後ずっとロータリーで活躍した人物です。

ロータリー最初の例会について紹介します。最初に例会を開いた場所は、鉾山技師のガスターバス・ロアーの事務所でした。もう一人はハイラム・ショーレーという洋服生地商で裁縫師でした。後の二人はロータリーを辞めてしまいます。理由はわかりませんが、会長とハリスが残ったということです。本には、

「最初のロータリー会合は、典型的な事務所で開催された。あまり照明の良くない、机が一つ、椅子が三つ四つ、隅にコート掛けが一つ、それに絵が一、二枚と工作図面が一つ壁に掲げられた小さな部屋だった。それはガスターバス・ロアーの事務所だった。そしてガスターバスが一人の訪問客、ハイラム・ショーレーを迎え入れたばかりの時だった。ハイラムは堅型の椅子の一つに腰をおろして、ガスターバスと話し始めた。

最初は通例の何気ない話で始まったが、まもなく彼等の話は友人の弁護士が数か月前から始終論じていた構想のことに移っていった。その弁護士がポール・ハリスだが、彼は一つの新しい種類のクラブの構想を持っていた。ガスターバスとハイラムは、シルベスター・シールとポール・ハリスを待っており、今晚もまたその問題を論じあおうというのであった。やがてその二

人が部屋に入ってきた。彼等は一つ二つ面白い経験談を交わしたあと、ポールが新しいクラブの構想を発表した。彼は、もし実業家達が定期的に会合してお互いに知り合うことができたら大変よいだろうと説明した。かくして1905年2月23日にロータリークラブが誕生したものだ。」「ポール・ハリスの達者な頭脳と寂寥の心から、一つの構想が生まれていた。その構想は彼をとりまく三人の人達の構造を刺戟した。最も偉大な理念（天才の片鱗）だと考えられたこの構想は、この人達に多大の刺戟を与え、この2月の一夜、既に小さな夢を胸に描かせたほどであった。とはいえ、このシカゴでの、みすぼらしい事務室の中で動き出したこの構想が、後日世界中の人々の心を捉えようとは、この人達が夢想だにしないことだった。」と最初の日のことを書いてあります。

続いて、そんな考えに至ったポール・ハリスはどのような人物であったか、生い立ちをみてみましょう。

西暦		年齢
1868	ウィスコンシン州ラシーヌ村で誕生	
1881	父とバーモンド州ウォーリングフォードへ、父はドラッグストアを精算して実家に戻った。 祖父は農場を経営しており緑の美しい自然の中で育った。	3
1891	アイオワ州立大学法学部卒 5年間の放浪の旅へ	23
1893	ワシントン、そしてイギリスへ	25
1896	シカゴにて弁護士開業	28
1905	シカゴにてロータリークラブ結成	36

ポール・ハリスは3才の時に、父に連れられて兄セシルと共に、バーモンド州ウォーリングフォードの父の生家である祖父母の家にやってきました。それは父が仕事に失敗したため祖父母に預けられたのです。ウォーリングフォードは自然の美しい田舎で、祖父は果樹や野菜や牧草を作っていました。祖父は優しい人で父に

対しては寛大な人でした。祖母は優しい人で働き者でした。ですから家は裕福でした。また祖父母は信仰心の厚い人でした。ハリスは毎週祖母に連れられて協会にいていました。『ニューイングランドの教会の静かで上品な雰囲気の中で、私は他では得られない程、情操を高めることができました。教会全体に安らぎと礼儀と幸福感が溢れていました。』とハリスは言っています。また『犠牲心、献身、名誉、真実、誠実、愛情は古き良き時代の家庭を代表する素朴な美德として大切なものです。』とも言っています。このような環境で育ちました。高校まではウォーリングフォードで過ごしました。いたずら小僧だったようです。バーモンド大学やプリンストン大学で学んだともいわれていますが、本には、アイオワ州立大学に入り1891年に卒業したとしか記載されていません。卒業後5年間の放浪生活に入りましたが、アメリカ各地の他に国外では、イギリス・アイルランド・フランス・スイス・イタリア・オーストリア・ドイツ・ベルギー・オランダなどに出かけています。この放浪生活5年間で非常に自分の人生にいろんなことを考えていく上で役に立ったとハリスがその後と言っています。

続いて、法律事務所を開いた頃のシカゴの様子はどうのような状況だったのでしょうか。大変な時代であったのですが、ロータリーの友では「20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道德の欠如が目につくようになっていました。」とあります。このことはさまざまな人が本の中で述べています。ロータリー・モザイクという本には、著者ハロルド・トーマスが「当時のシカゴは、超我の奉仕という標語は戯言としか考えられなかっただろう。」とハリス自身が言ったと記載されています。さらに「『商売に情けは無用だ、商売と友情は両立しない。』といった言葉が昨日のように覚えている。」とも言っています。「友愛と商売の間には当然の溝が存在し、この溝は未だかつて橋渡しされたこともなければ将来も橋渡しすることはできないものだということが当時の信念であった。」というようにロータリークラブをつくるような情勢ではなかったようです。また、「シカゴは何処に行っても人で一杯でした。顔見知りもいませんでした。私には大切なことが一つ欠けていました。それは友達でした。哲学者エマーソンは、『千人の友達を持っていても一人も手放すことはできない』と言っ

ています。私が居をかまえたシカゴには友達は何人もいませんでした。人間は苦しんで初めて向上するものです。誰かが必要なものを心に描き、どうやって実現しようかと苦勞しなければ構想はまとまるものではありません。これまで苦勞したお蔭で人間には交友関係が必要なことに気付くことができました。人間には人間同士の付き合いが必要なことがはっきりしました。」と言っております。「ある晩のこと、同業の知人に誘われて彼の郊外にある家を訪ねました。夕食後二人で散歩に出かけたのですが、店の前を通る度に友人は店の主人と名を呼びあって挨拶していました。私ははたとウォーリングフォードのことを思い出しました。大都会シカゴで各種の職業から、政治や宗教の立場を離れてお互いの意見を大らかに認めあえるような人を一人ずつ選んで親睦団体を作ったらという構想が浮かびました。もしこんな団体ができればお互いに助けあえるはずです。私はこの衝動をすぐには実行しませんでした。何年も待ちました。大きな運動を起こす時には、信念を持った男が暫く一人で構想を練ることが必要です。私は熟慮に熟慮を重ねた結果、ついに1905年2月、三人の実業家に声を掛けていました。そこで、昔お互いが故郷の村で体験したように、相互の協力を推進したり、お互いに裸の付き合いを深める方法について簡単な案を出したところ、全員が賛成してくれました。」これが最初の例会に繋がっていきます。「そのうち会員も増え、異業種がどんな希望や問題を持っているのか、成功したり失敗したりするのはどうしてかといった共通点があることも分かりました。その共通点が非常に多いのです。さらにお互い奉仕する喜びも発見して、故郷に帰ったような安らぎを覚えました。」このようにハリスは述べています。

ポール・ハリスがクラブの会長になったのは3年目です。その時の抱負は、第一にシカゴクラブを大きくすること、第二にロータリーを他都市にも広げること、第三に社会奉仕を強化すること、この三つの目標を掲げました。そしてこのようなことを言っています。

「私は本当に果報者です。世界中に友人を持っているのは天の恩恵です。しかもこの友人がお互いに友達であるということを考えると、本当に嬉しくなります。子供の頃、故郷で“ポール、おはよう”と呼ばれると嬉しくなったものですが、それが今では、金持ち・貧

乏人・老若に関係なく、仲間のロータリアンから“ポール、おはよう”と挨拶されると、妙なる音楽として耳に響いてきます。大都会シカゴに小さなグループが集まってできた会員には、ロータリーは丁度オアシスのようでした。ロータリーの集会は当時の他のクラブとは一味違って、親密度が濃く、友情に溢れていました。ためにならない無意味な制約はご法度でした。会員は会場の入口で肩書を外し、みな元の少年に戻ります。私にとっては、クラブの集會に出ることは故郷に帰ることと同じでした。ロータリーの最初の考え方は花を開き、ロータリーの理想と目的は明確になりました。しかし、肩のこらない仲の良い親睦関係は相変わらずロータリーの重要な要素でした。」、いまでもこのハリスの考え方は変わっていません。

まだまだ申し上げたいこともあります。時間になりましたのでこれで終わりいたしますが、続きはまたの機会にお話ししたいと思います。

みなさま、ポール・ハリスがどのような気持ちでロータリーをおつくりになったか少しでもわかっていたらありがたいと思います。

◆今後の例会日程

11月1日	(金)	クラブフォーラムロー列-財団委員会
11月10日	(日)	家族例会 バスハイク
11月15日	(金)	図書寄贈報告 社会奉仕委員会